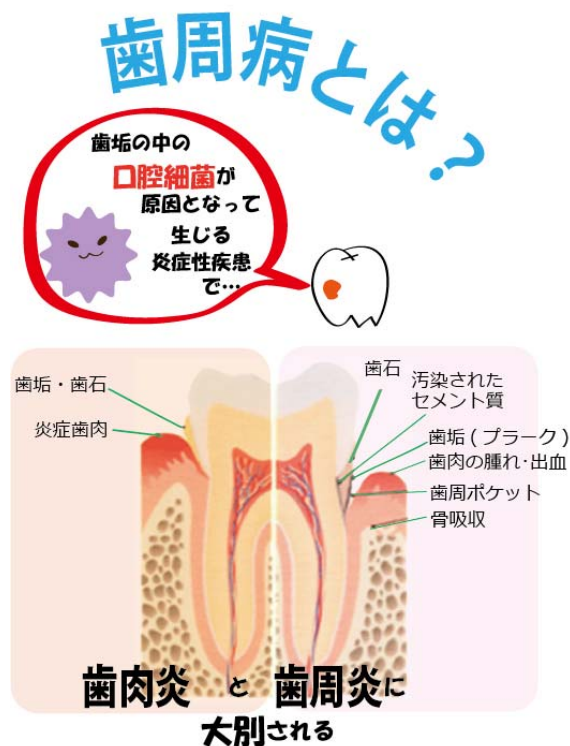


子育てに役立つ情報をご紹介します、「おしえて、エコチル先生！」。
今回は、「子どもたちのためにも歯を大切に」をテーマに、エコチル
調査愛知ユニットセンターの産婦人科医、尾崎康彦先生が解説してく
ださいます。

今日、日本の成人の約80%は歯周病（歯肉炎あるいは歯周炎）に罹患
しているといわれています。歯周病は歯牙喪失を引き起こし、それに伴
って味覚異常や唾液分泌異常を生じさせるだけでなく、自律神経系の異
常を招くことなども明らかになってきました。

さらに近年では、歯周病が心筋梗塞や脳梗塞などの循環系疾患や糖尿
病のようなメタボリック症候群、老人性肺炎、骨粗鬆症、早産・低出生
体重児など、様々な全身性疾患のリスクファクター（危険因子）になっ
ていることが指摘されています。



1997年に発表されたアメリカにおける疫学調査では、歯周病罹患者は健康な人に比べて2.7倍の高い頻度で心臓発作を起こしていることがわかりました。また、アテローム性動脈硬化症におけるプラーク（歯垢）の45%以上に歯周病原性細菌であるジンジバリス菌が検出されることが報告されたほか、歯周病の妊婦さんは健康な妊婦さんより高い割合で早産や低体重児出産となっていることも指摘されています。これらのことは歯科領域のみならず全身の健康維持を考えるうえにおいても注目すべき調査結果といえます。しかしながら、歯周病がどのようにして全身のさまざまな疾患に影響を与えるのかなどの詳しいことについては未だ明らかにはされていません。

私たちは歯周病原性細菌やその細菌が産生する物質（酵素）と、早産及び低出生体重児との関連について研究を進めています。

早産の発症を少なくするために

近年我が国においては、周産期・新生児医療の発展により、多くの幼い命が救えるようになりました。そんな中で、出生しても死亡率の高い早産児や低出生体重児の救命は、残された解決すべき重要な課題となっています。

我が国の周産期・新生児医療は過去に比べ確実に進歩しましたが、早産は未だ全分娩の約5%を占め、主に早産の結果である低出生体重児は、1980年の4.2%から、2000年は8.3%と、2倍近い増加を示しています。その要因として、近年のライフ・スタイルの変化のひとつである晩婚化などを背景に、不妊症に悩むカップルが増加し、不妊治療で排卵誘発剤を使用する結果として、多胎妊娠が増加していることが挙げられます。多胎妊娠はハイリスク妊娠であり、明らかに早産率が高いため、今後さらに早産児が増える可能性もあるのです。

早産の25%は母体や胎児異常などの治療のために娩出となった症例ですが、残りの75%は前期破水や切迫早産の結果です。最近では前期破水や切迫早産の原因として、感染・炎症によるものが大多数を占めることが明らかになってきており、その中に歯周病によるものが含まれているとするならば、今後適切な歯周病治療あるいは予防をきちんとすることによって、早産の発症を減少させられる可能性は高いと考えられます。

早産と歯周病が関連していることについては、近年の国内外の研究によって報告されています。海外での研究のひとつに、歯周病罹患妊婦の早産のリスクは健常妊婦の約6倍であるという報告があり、注目に値します。歯周病の原因のひとつとして、ジンジバリス菌が歯周病原性細菌として関与していることも明らかになってきました。ジンジバリス菌はジンジパインという強力な毒性を持った酵素を産生します。

歯周病と早産リスクの関連を研究

私たちは他施設と協力し、ジンジバリス菌と早産・低出生体重児に関する基礎的研究を行っています。マウスを用いた研究では、ジンジバリス菌を投与すると、菌量に依存して早産・死産率が上昇する一方、出産数や出生体重は減少傾向となることが認められました。またジンジバリス菌は胎盤で増殖しやすいこと、さらにはジンジパインを抑える薬が、早産や低出生体重児を予防することなども動物実験で分かってきました。今後さらに研究を発展させ原因を究明することで、歯周病と早産・低出生体重児との関連を明らかにし、さらには予防法や治療法を確立したいと思っています。

エコチル調査愛知ユニットセンターでは、妊婦さんの歯周病罹患の早産リスクに関する日本における初めての大規模調査を行っています。歯周病を合併している妊婦の早産や低出生体重児のリスクは、健康な妊婦の約6倍と非常に高いという研究結果が報告されているにもかかわらず、一般的にはまだ十分に周知されていないのが現状です。私たちはこうした調査によって明らかになった研究成果を広く社会に周知し、予防（口腔内ケア）や治療（歯科受診）を促すことによって、早産・低出生体重児を減少させることができるのではないかと考えています。エコチル調査に参加している皆様のご理解とご協力をこれからもよろしくお願いいたします。

最後にもうひとつ。現在、歯周病治療には細菌性プラークに対応するための抗微生物作用をもつ抗生物質や消毒薬が主として使われていますが、有益性と有害性の関係で見た場合、ブラッシングによる機械的清掃に優る有効性が認められるものは殆どないといっても過言ではないそうです。「妊婦さんも歯が命」です。毎日丁寧なブラッシングで歯周病

に気をつけて、元気な赤ちゃんを迎えましょう。

(2016年11月15日)



■今月のエコチル先生

尾崎康彦 先生

名古屋市立大学病院 病院教授
分べん成育先端医療センター副センター長
不育症研究センター副センター長
名古屋市立大学大学院医学研究科 准教授
産婦人科学
医学博士

※初出：エコチル調査愛知ユニットセンター・ホームページ、「環境と子どもの健康 最前線 No. 3」
(一部改稿)

http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/ecoaichild/pages/specials_kind_03/